

学位論文の 探し方

- 1 学位論文とは何か
- 2 博士論文
 - 2-1 博士論文の探索
 - 2-2 博士論文の入手
 - 2-3 大阪大学に提出された博士論文
- 3 博士論文をもとにした書籍・論文
- 4 海外の博士論文
 - 4-1 海外の博士論文の探索
 - 4-2 海外の博士論文の入手
- 5 修士論文・卒業論文



1 学位論文とは何か

学位は、大学・大学院などの高等教育機関・学位授与機関において、所定の課程を修了した際に授与される称号です。一般に、学位には、学士課程（大学の学部）を卒業した際に授与される学士、大学院の修士課程を修了した際に授与される修士、大学院の博士課程を修了した際に授与される博士があります（日本ではほかに、短期大学士や専門職学位があります）。

学位論文は、学位を取得するために執筆され、学位授与機関に提出された学術論文の総称です。学位論文は、学位の取得を一義的な目的として執筆されたものなので、流通することは少なく、入手が困難であることが一般的です。ただし、博士論文は、学術的な意義が大きいため、原則として学術情報の流通ルートに乗せられることとなっており、卒業論文・修士論文と比べて検索性や入手可能性が高いといえます。

博士論文は、かつてはとくに人文・社会科学系の分野において、研究者のキャリアの集大成として位置づけられていましたが、近年では研究者としてのキャリアの比較的初期に書かれることが標準化したこともあり、とくに若手の研究者において、博士論文をもとにして一般への流通を目的とした書籍・論文を執筆する例が多くみられます。このガイドでは、こうした書籍・論文についても取り上げます。

2 博士論文

2-1 博士論文の探索

2-1-1 データベース

国内の大学に提出され、学位を授与された博士論文のうち、1923（大正 12）年以降に学位を授与されたものは、CiNii Research および国立国会図書館サーチで検索することができます。また、2013 年度以降に学位を授与された博士論文は、学位授与大学の機関リポジトリで原則として公開されています。

■CiNii Research（国立情報学研究所、<https://cir.nii.ac.jp/>）

- ・国内の大学に提出された博士論文を検索するうえで、もっとも包括的なデータベースです。（2025 年まで稼働していた博士論文専用データベースの CiNii Dissertations は、CiNii Research に統合されました。）
- ・検索結果一覧に学位授与大学、学位名称、学位番号、学位授与年月日が表示されます。また、学位授与大学の機関リポジトリおよび国立国会図書館サーチへのリンクも表示されるため、これらのリンクから要旨や本文の入手に移行することができます。

■国立国会図書館サーチ（博士論文検索専用インタフェース）

（国立国会図書館、<https://ndlsearch.ndl.go.jp/search/detail-search/dissertations>）

- ・1923（大正 12）年 9 月以降に国内の大学に提出され、学位を授与された博士論文を検索することができます。
- ・国立国会図書館が所蔵している博士論文の探索・利用については、国立国会図書館リサーチ・ナビの「[国内博士論文](#)」のページも参照してください。

■学術機関リポジトリデータベース（IRDB）（国立情報学研究所、<https://irdb.nii.ac.jp/search>）

- ・2013 年度以降に学位授与された博士論文は、原則として、学位授与大学が機関リポジトリ等を用いてイ

インターネット上に公開することとなっています。IRDBでは、国内の大学の機関リポジトリを統合的に検索することができます。

・大阪大学が運営する機関リポジトリ「大阪大学学術情報庫（OUKA）」には、[博士論文検索専用ページ](#)も設けられています。

・博士論文のインターネット公開は機関リポジトリを用いて行われているため、大半の大学のOPACでは博士論文を検索することができません。例外的に、京都大学附属図書館のOPAC（[KULINE](#)）では京都大学で学位を授与された学位論文を検索することができ、学位論文に絞って検索することもできます。

2-1-2 博士録

明治期から昭和期までの古い博士論文を探索する際には、「博士録」と呼ばれる名鑑が有用です。とくに、データベースに収録されていない年代（1922年以前）の博士論文を探索する際に役に立ちます。

■『大日本博士録』（発展社、1921～1930年）【[阪大所蔵あり](#)】

■『大日本博士録 復刻版』（アテネ書房、2004年）【[阪大所蔵あり](#)】

・日本で学位の授与が開始された1888（明治21）年から1929（昭和4）年までに学位を授与された人物に関する情報がまとめられています。

・大阪大学で所蔵している「復刻版」は、第5巻（工学博士の部）のみです。

■『日本博士録』（教育行政研究所）【[阪大所蔵あり](#)】

■『日本博士録 複製版』（日本図書センター、1985年）【[阪大所蔵あり](#)】

・1888（明治21）年から1962（昭和37）年までに学位を授与された人物に関する情報がまとめられています。

・「複製版」は、国立国会図書館デジタルコレクションでも閲覧することができます。

2-2 博士論文の入手

2-2-1 インターネットを通じて入手する

2013年度以降に学位授与された博士論文は、原則として、学位授与大学の機関リポジトリにおいてインターネット上に公開されています（ただし、「やむを得ない事情」により本文が公開されていないものが相当数あります）。また、国立国会図書館デジタルコレクションには、特定の時期に学位授与された博士論文が登録されており、個人送信対象のものはインターネット上で閲覧することができます。

学位授与時期ごとの博士論文の入手方法のイメージは、以下の通りです。（著作権者の許諾や各機関における電子化の程度によって、具体的な入手方法は異なりますので、あくまでも目安としてください。）

学位授与年度	所蔵機関：媒体	入手方法
1923（大正12）～	学位授与大学：紙媒体	紙媒体を利用。
1958（昭和33）	国立国会図書館：紙媒体・ 電子形態	
1959（昭和34）～	学位授与大学：紙媒体	紙媒体を利用。
1986（昭和61）	国立国会図書館：紙媒体	

1987 (昭和 62) ~	学位授与大学：紙媒体	国立国会図書館デジタルコレクションで
2000 (平成 12)	国立国会図書館：紙媒体・ <u>電子形態</u>	入手可能な場合あり。
2001 (平成 13) ~	学位授与大学：紙媒体	紙媒体を利用。
2012 (平成 24)	国立国会図書館：紙媒体	
2013 (平成 25) ~	学位授与大学： <u>電子形態</u>	機関リポジトリ・国立国会図書館デジタル
現在	国立国会図書館： <u>電子形態</u>	コレクションで入手可能な場合あり。

2-2-2 図書館を訪問して利用する

学位授与大学の図書館または国立国会図書館関西館を訪問し、博士論文を利用することができます。大学図書館を訪問する際には、紹介状が必要ですので、事前に「[紹介状発行依頼フォーム](#)」から申し込んでください。詳しくは、附属図書館 Web サイトの「[他大学等の図書館を利用する（訪問利用）](#)」のページを参照してください。

国立国会図書館関西館で所蔵されている博士論文の利用については、国立国会図書館リサーチ・ナビの「[国内博士論文](#)」のページを参照してください。

2-3 大阪大学に提出された博士論文

大阪大学・旧大阪外国語大学に提出され、学位を授与された博士論文は、附属図書館で保管されています。1957 (昭和 32) 年度以降に学位授与された博士論文は、大阪大学学術情報庫 (OUKA) に登録されており、すべての論文の要旨と、インターネット公開が可能な論文の全文が公開されています。

なお、大阪大学・旧大阪外国語大学に提出され、学位を授与された博士論文について、大阪大学では 1961 年度～2013 年度、旧大阪外国語大学では 2000 年度～2007 年度に要旨集が作成されています。

■大阪大学『博士學位論文：内容の審査および審査結果の要旨』【[阪大所蔵あり](#)】

■大阪外国語大学『博士學位論文：内容の要旨及び審査結果の要旨』【[阪大所蔵あり](#)】

著者の許諾が得られないなどの理由でインターネット公開ができない論文については、2012 年度までに学位授与されたものは紙媒体、2013 年度以降に学位授与されたものは電子ファイルを、それぞれ館内で閲覧することができます。

紙媒体の博士論文は、専攻分野によって所蔵館が異なります。学位に付記される専攻分野ごとの所蔵館は以下の通りです。

所蔵館	専攻分野
総合図書館	文学、人間科学、法学、経済学、応用経済学、経営学、理学、工学、言語文化学、国際公共政策、情報科学、学術
生命科学図書館	医学、保健学、看護学、歯学、薬学、臨床薬学、生命機能学、小児発達学、学術
理工学図書館	工学
外国学図書館	言語文化学、日本語・日本文化、学術、国際学

大阪大学・旧大阪外国語大学に提出された博士論文の利用については、附属図書館 Web サイトの「[大阪大学の博士論文について](#)」のページも参照してください。

3 博士論文をもとにした書籍・論文

博士論文は、修正を加えたうえで書籍や論文として出版され、一般に流通することがあります。ただし、すべての博士論文がそのような形で流通するわけではありません。博士論文の原本と、博士論文をもとにした書籍・論文のいずれを利用するかは、目的に応じて判断することとなります。一般的には、博士論文の原本が一義的には学位取得を目的としているのに対して、書籍や論文として出版されたものは一般に読まれることを想定していることから、利用可能である場合には後者を利用すればよいといえます。

博士論文をもとにした書籍・論文を探索する際には、CiNii Research 等のデータベースでもとの博士論文の書誌情報を確認したうえで、同一の著者による類似したタイトルの書籍・論文や、学位取得から比較的近い時期に出版された書籍・論文を探します。研究者情報をまとめた Web サイト等（日本では「[researchmap](#)」がもっとも網羅的です。ほかに、研究者が所属する研究機関の Web サイトや、研究者の個人 Web サイトがある場合もあります）を確認することも有用です。

なお、博士論文は、提出に先立ってすでに発表した学術論文を部分的に使用することが一般的ですが、それらの論文は、博士論文の参考文献リスト等で明示されています。

4 海外の博士論文

4-1 海外の博士論文の探索

4-1-1 学位授与大学等のデータベース

海外の大学に提出され、学位を授与された博士論文を探索する際には、基本的には学位授与大学の機関リポジトリや OPAC 等で検索します。日本と同様に、海外の大学においても、近年の博士論文は電子化され、インターネット公開されている場合が多く、これらを統合的に検索することができるデータベースも作成されています。また、その国の国立図書館等の全国書誌作成機関が博士論文を収集している場合には、その国立図書館等の検索システムで検索することができる場合もあります。

〈世界各国を横断的に検索することができるデータベース〉

■ [Open Access Theses & Dissertations \(OATD.org、https://oatd.org/\)](#)

・世界中の約 1100 大学で学位を授与された学位論文約 746 万件を検索することができます。

■ [Global ETD Search \(The Networked Digital Library of Theses and Dissertations、休止中\)](#)

・ケープタウン大学が運営していた、電子学位論文ネットワーク (NDLTD) に参加する 100 以上の大学で学位を授与された電子化された学位論文のデータベースです。

・セキュリティ上の問題で現在はサービスを休止しています。代替的なデータベースとして、「Open Access Theses & Dissertations」の利用が推奨されています。(参考：[Help Build Global ETD Search](#))

■ [Dictionary of Open Access Repositories \(OpenDOAR\) \(SHERPA、https://opendoar.ac.uk/\)](#)

・英国の機関リポジトリ推進プログラム (SHERPA) が運営する、全世界の機関リポジトリを対象としたリンク集です。

■ Registry of Open Access Repositories (ROAR) (サウザンプトン大学、<https://roar.eprints.org/>)

・全世界を対象とした機関リポジトリのリンク集です。

■ OAIster (OCLC、<https://www.oclc.org/en/oaister.html>)

・世界中の 2000 以上の機関リポジトリから 5000 万件以上のドキュメントを検索することができます。

■ WorldCat (OCLC、<https://search.worldcat.org/ja>)

・世界最大の総合目録です。詳細検索の「フォーマット」で学位論文を指定して検索することができます。

■ Dissertations & Theses (Center for Research Libraries、<https://oatd.org/>)

・北米を除く世界 100 か国の学位論文約 80 万件を検索することができます。

■ La Referencia (The Latin American Network for Open Science、<https://www.lareferencia.info/es/>)

・ラテンアメリカの大学で学位を授与された博士論文約 50 万件、修士論文約 110 万件を検索することができます。

〈各国の国立図書館等のデータベース〉

■ Dissertations and Theses

(Library of Congress、<https://guides.loc.gov/c.php?g=1428775&p=10607107#s-lib-ctab-33385853-1>)

・米国議会図書館 (米国の全国書誌作成機関) Web サイトの、学位論文に関する情報がまとめられたページです。米国の博士論文を検索することができるデータベースのリンク集も作成されています。

■ UK Doctoral Thesis Metadata from EThOS

(British Library、<https://bl.iro.bl.uk/concern/datasets/10cc13f9-797d-41f2-a7e2-d29f4306133e>)

・英国図書館が提供していた学位論文ポータルサイト「EThOS」がサイバー攻撃により休止したため、代替的に収録情報のメタデータが公開されています。EThOS は、2026 年中に復旧する見込みです。

■ Sudoc (ABES、<https://www.sudoc.abes.fr/cbs/>)

・フランスの大学・研究図書館の総合目録です。詳細検索で学位論文を指定して検索することができます。
・2004 年以降のフランスの博士論文は、「theses.fr」でも検索することができます。

■ 国家図書館博士論文

(中国国家図書館、<http://read.nlc.cn/allSearch/searchList?searchType=65&showType=1&pageNo=1>)

・中国の大学で過去 20 年の間に学位を授与された博士論文約 25 万件を検索することができます。

■ 中国学位論文全文データベース (万方数据、<https://c.wanfangdata.com.cn/thesis>)

・1980 年以降に中国の大学で学位を授与された博士論文の書誌情報を検索することができます。

■ 台湾博碩士論文知識加値系統 (台湾国家図書館、<https://ndltd.ncl.edu.tw/>)

・台湾の大学で学位を授与された博士論文約 146 万件を検索することができます。

■国立電子図書館（韓国国立図書館、<https://www.dlibrary.go.kr/browse/showType.do>）

・韓国の大学で1946年以降に学位を授与された博士論文約157万件を検索することができます。

・欧米およびオセアニアの各国立図書館等が運営している博士論文を検索することができるデータベースについては、国立国会図書館リサーチ・ナビの「[海外博士論文（インターネット情報源）](#)」のページにまとめられています。

4-2-2 国立国会図書館

日本国内では、国立国会図書館が、1958年から、欧米の大学に提出された科学技術分野を中心とする博士論文を収集しています。検索方法・利用方法は、コレクションや収集時期によって異なります。詳しくは、国立国会図書館リサーチ・ナビの「[海外博士論文（総論）](#)」のページを参照してください。

4-2-3 その他のデータベース

■ProQuest Dissertations & Theses A&I（ProQuest社）【[阪大契約あり](#)】

・世界中の学位論文を収録した書誌データベースです。1743年以降現在までのものを収録しています。書誌データベースですが、冒頭24ページ分のプレビューを利用できるものもあります。

■ProQuest Dissertations & Theses Global（ProQuest社）【[阪大契約あり](#)】

・北米を中心に、世界中の大学の学位論文を収録した書誌データベースです。1997年以降の学位論文は、PDFファイルで全文を閲覧することができます。

・大阪大学は、「The Sciences and Engineering Collection」のみ契約しています。

4-2 海外の博士論文の入手

海外の大学で学位を授与された博士論文のうち、機関リポジトリ等でインターネット公開されているものは、無料で入手することができます。

海外の博士論文を図書館を介して入手する場合は、所蔵館を特定した上で、複写物を取り寄せることができます（複写料金と送料がかかります）。また、所蔵館に訪問して利用することができる場合もあります。

海外の博士論文を購入する場合は、以下のデータベースやサービスを利用することができます。（これらのサービスの利用にあたっては、図書館は仲介しません。）

■ProQuest Dissertations & Theses A&I（ProQuest社）【[阪大契約あり](#)】

・検索結果から、入手形態を選択した上で購入することができます。

■ARROW（ドキュメントデリバリーサービス）

（サンメディア、<https://www.sunmedia.co.jp/document-delivery-service/>）

・医学、薬学、理工学系を中心に、世界で流通している学位論文等を購入することができます。

■丸善雄松堂学位論文センター（丸善雄松堂、<https://kw.maruzen.co.jp/ln/ydsc/>）

・米国の学位論文（全分野）を購入することができます。ウェブサイトでの注文受付は2025年6月で終了しており、現在は営業拠点での注文受付のみとなっています。

5 修士論文・卒業論文

修士論文や卒業論文は、学位取得を一義的な目的としており、一般に流通することを想定していないことから、網羅的な収集やメタデータの付与はなされておらず、統合的に検索したり、入手したりすることは困難です。例外的に、学位授与大学や研究科・学部・専攻等の Web サイトでタイトルや要旨が公開されている場合や、著者本人が個人の Web サイト等で公開している場合があります。

附属図書館では、大阪大学に提出された修士論文・卒業論文は保管していません。ただし、以下の専攻の修士論文を外国学図書館で保管しています。利用については、外国学図書館の「[利用案内](#)」をご覧ください。

研究科	専攻
旧大阪外国語大学の全研究科	全専攻
旧言語文化研究科、人文学研究科	言語社会専攻、日本語・日本文化専攻
人文学研究科	日本学専攻（応用日本学コース）、外国学専攻

附属図書館は、阪大生のみなさんの学習・研究をサポートします！

附属図書館では、各館の参考調査カウンターを中心に、阪大生のみなさんの学習・研究をサポートしています。学習・研究に必要な文献調査や情報提供をはじめとしたご相談に応じていますので、ぜひお気軽にご利用ください。詳しくは、附属図書館 Web サイトの「[レファレンス・デスク](#)」のページを参照してください。

また、附属図書館 4 館のうち 3 館（総合図書館、理工学図書館、外国学図書館）では、ラーニング・サポートデスクを設置しています。ラーニング・サポートデスクでは、大阪大学の大学院生がラーニング・サポーター（LS）としてみなさんの学習・研究に関するご相談に応じます（対面相談・オンライン相談のほか、フォームからの相談も受け付けています）。LS の専攻や在席時間については、附属図書館 Web サイトの「[ラーニング・サポートデスク](#)」のページを参照してください。

「学位論文の探し方」に関連する、LS 作成パスファインダー

タイトル	作成年度	作成者所属（当時）
卒業論文にとりかかる（改訂版）	2026	人文学研究科
論文の読み方・書き方を理解する	2021	言語文化研究科
論文投稿の手順と執筆	2015	言語文化研究科

附属図書館ラーニング・サポートデスクでは、LS の専門性をいかした「テーマ別調べ方ガイド」（パスファインダー）を作成しています。附属図書館 Web サイトの「[パスファインダー](#)」のページで、これまでに作成したパスファインダーをご覧ください。